

## 2018 Jiading International Youth Friendship Camp

### 事業の概要

1. 派遣期間 平成30年7月29日（日）～8月6日（月）
2. 派遣先 中華人民共和国上海市嘉定区
3. 派遣人数 高校生2名、引率者1名 合計3名
4. 研修日程等

月日	曜日	内容
4月 1日		派遣学生募集開始
4月27日	金	派遣学生募集締め切り
5月20日	日	面接試験（太田市社会教育総合センター）
6月16日	土	第1回派遣学生研修会（太田市南庁舎）
6月30日	土	第2回派遣学生研修会（太田市南庁舎）
7月14日	土	第3回派遣学生研修会（太田市南庁舎）
7月29日	日	成田空港発
8月 6日	月	成田空港着（太田着）
8月20日	月	帰国報告会（太田市役所4階 庁議室）

5. 現地日程

日 時			内容
7月29日	日	（到着）一日	出迎え、受付
7月30日	月	午前	上海市内観光（上海動物園、大世界）
		午後	上海市内観光（豫園）
		夜	アクロバティックショー見学
7月31日	火	午前	開幕式
		午後	伝統文化体験
		夜	シアター・マジックショー見学
8月 1日	水	午前	小学校見学
		午後	無形文化体験
8月 2日	木	一日	上海市近郊見学（虎丘、江蘇錦溪）
8月 3日	金	一日	高校体験入学
8月 4日	土	一日	嘉定区高校生ボランティア宅訪問
8月 5日	日	午前	閉幕式
8月 6日	月	一日	見送り、帰国

## 2018 Jiading International Youth Friendship Camp

### 6. 参加国

No	国	都市
1	日本	群馬県太田市
2	日本	大阪府八尾市
3	日本	鹿児島県霧島市
4	ニュージーランド	ハウラキ区
5	ドイツ	ヴオルフスブルク市
6	ハンガリー	ペーチ市
7	セルビア	ベルグラード市ヴオジュドヴァツ区
8	イギリス	スコットランド南エアシャイア郡
9	フランス	バステリア市
10	アメリカ	ボルティモア市

### 7. 上海市嘉定区概要

上海市嘉定区は、上海市の北西部に位置し、面積は463平方キロメートル、人口は約164万人であり、人口は急増している。区名は、南宋の時代の年号（嘉定）からとった名称（嘉定県）で、2018年に建県（現在は区）800年を迎える。「教化嘉定」として、教育と文化に力を注いでおり、歴史文化遺産も多数あり、昔から文化的有名人をたくさん輩出している。

自動車産業が盛んであり、フォルクスワーゲンの製造工場やボルボの生産本部や研究開発センターがある。部品製造企業や研究開発企業も多数ある。1958年に科学技術衛星都市として上海市から指定を受け、中国科学院の科学研究所が数か所あり、各種研究機構も多数ある。

## 団長

本キャンプに引率者として参加いたしました。

9日間、嘉定区の外事弁公室の職員や、インターンシップの大学生が常にサポートしていただき、台風で待機となった8月3日の午前中以外、全ての日程を無事過ごせ、安心して引率することができました。

キャンプ中は、区内・市内観光や、文化体験がたくさんプログラムに組み込まれており、学生のみならず引率者も様々な体験をさせていただきました。各都市の参加者同士、上海市内外の観光地を見学したり、中国文化である伝統衣装体験やワントン作り、チーム書道等を体験したりしながら交流を深めました。文化の異なる者同士が中国文化を体験する中で、嘉定区の文化を知ることはもちろんですが、各々の国や都市の文化について話をしながら交流することは、面白く、貴重な体験であると感じました。

嘉定区の高校生ボランティアが、各都市に付き、街中での中国語の通訳や、観光地での詳しい説明をしてくれました。太田市には、邵珺 wei (Shao Junwei)さんが付いてくれ、いつも私たちのことを気にかけてくれました。ファミリーデーでは、邵さんのお宅へも伺い、ご両親とお会いしました。温かく迎えてくださり、お母様の美味しい手料理をいただきました。邵さんにご家族にお会いできたご縁に感謝の気持ちでいっぱいです。

学生同士の交流では、今回、語学力が長けている学生2名の参加であったため、スムーズに会話し、他の都市の学生と打ち解けるのが早かったように感じました。学生全体を見ると、誰とでも打ち解けられる学生、どうやってコミュニケーションを図るか迷っている学生、英語に自信が無く仲良くなりたくともなれないと悩む学生、といろいろな学生がいました。しかし、皆フレンドシップを図りたい気持ちは共通しており、日が経つにつれて徐々に仲のよい学生同士集う姿が見受けられました。キャンプ最終日の帰国の見送りには涙を流しながらさよならをする姿が見られ、良いフレンドシップの関係ができあがっていたように感じました。帰国後もきっとこのフレンドシップは続いていくのだと感じました。

今回の引率では参加学生の健康に留意しながら、自由に行動できるよう見守ることを意識いたしました。幸い、学生たちは体調を崩すことなく、無事キャンプを終えられたこと安堵しています。また、自由行動時では他都市の学生を引率する場面もあったので、英語での指示等語学力で学ぶべきところがありました。反省を生かせるよう、今後の学びに繋がりたいです。

今回の参加自治体は友好都市を結んでいる都市や、太田市のように招待していただいて参加している都市もありました。最後の閉会式では嘉定区の教育局長さんがお越しく下さいました。太田市を訪問したときのエピソードをお聞かせくださり、友好的関係がよくわかりました。太田市と上海市嘉定区のフレンドシップが今後更に発展することを願っております。

本キャンプを通じて、嘉定区の外事弁公室の皆様、学生と学生のご家族の皆様の温かさと感じ、有り難いおもてなしをいただきました。未来を担う青少年が、中国文化を体験しつつ、様々な国の学生と交流する機会はとても貴重な体験であり、そのキャンプに引率者として参加させ

## 2018 Jiading International Youth Friendship Camp

ていただくことができ、良い経験になりました。今後、今回の引率経験や、得ることができたフレンドシップを活かせる機会が訪れたら、力を発揮したいと思います。

最後に、本キャンプの参加に理解し、協力してくださったこども課の方々、様々な場面でサポートしてくださった交流推進課の方々や、太田市国際交流協会の方々、参加学生の二人に感謝いたします。

### ぐんま国際アカデミー高等部 1年女子

2018年夏、私は太田市の代表として、上海の嘉定区にて国際交流を目的とした9日間のプログラムに参加させていただく機会を頂きました。キャンプには、8カ国10都市から21人の生徒、そして現地の高校生ボランティアなど沢山の方が参加していました。9日間の活動の主な内容としては、観光や上海の文化体験がメインでしたが、それらを通して多くの国々の参加者と話すことができました。やったことをつらつらと述べるのもつまらないので、この報告書では、強く印象に残った五つの事柄について報告させていただきます。

まずは食事の挨拶「いただきます」と「ごちそうさま」です。普段私たちが何気無く言っているこの言葉ですが、食事の材料となった命や作り手に感謝するという文化はあまり他の国には存在しません。そのため、この挨拶が癖になっている私たちが手を合わせて「いただきます」「ごちそうさま」と言うと、周りはすかさず「それ何!?!」と聞いてきました。「日本の食事をするときの挨拶だよ」と教えると、毎食みんなで「いただきます」と「ごちそうさま」を言うようになりました。

次に日本のアニメ文化です。私は昨年インドに行ったことがあり、そこでアジアでは日本のアニメがとても人気であることを知りました。ですが、今回のプログラムに参加して日本のアニメはアジアだけでなくヨーロッパなど世界中でも有名であることを知りました。キャンプに参加していた色々な国の生徒たちが、私が知らないようなアニメを知っていたり、その魅力を沢山話してくれたり、様々なアニメの歌を歌えたり、世界のいろんな場所にそれらの魅力を知っている人がいると感じ、オタクの私としてはとても誇りに思うことができました。

ここまでは上海で感じた日本の良いところを書いてきましたが、上海では「こういう面、日本は足りないな」と感じた部分もありました。特にそれを感じたのは教育の面です。ホストファミリーデーで太田担当の Shao さんの家に伺ったとき、上海の高校の教科書を見させていただきました。基礎も日本に比べて難しいものやっており、また考える力を鍛える問題も多く、毎日相当勉強しているんだなと感じました。特に英語の教科書は文法だけでなく高いレベルの長文読解も載っており、「これだと日本はすぐに抜かれるな」と感じました。

そして、それと関連して「こういう面は自分も足りない」と感じたのは参加者のほとんどがマルチリンガルということでした。私や麻心は英語を勉強できる学校に行っているため、周りの人からは「日本語と英語のバイリンガルか。すごいね」と言われることが良くあります。で

すが今回の参加者は、皆母国語、英語、そして何かもう一つ言語を習得していました。そのためドイツとハンガリーからの参加者がスペイン語で会話をしている、など不思議な空間が生まれていることが多々ありました。これからは第3言語の習得を目標とし、そして日本でも導入すべきだと感じました。

最後に、私はこのプログラムに申し込むための作文で「世界中の人たちが日々心に抱いている言葉を知りたい」と記していました。その目的を達するべく、みんなに「好きな言葉は何？」とインタビューをしていきました。するとみんないろんな言語、いろんな言葉数の思い思いの言葉を教えてくれ、とても嬉しかったです。みんな言葉は違いますが、多くの人が周りも自分も嬉しい言葉、失敗を受け入れる言葉、この世界の多様性を表す言葉、など素敵な言葉がたくさん集まりました。今回のキャンプに参加させていただいたことで、お互い優れている部分は違うけれども、いいと思ったところを吸収し合いながらそれぞれの言葉を胸に抱いて世界を共有していきたいと感じることができました。このような機会を与えていただき本当にありがとうございます。以上、報告を終わります。

#### ぐんま国際アカデミー高等部 1年女子

7月29日から8月6日までの9日間、私は中国・嘉定区の友誼キャンプに参加してきました。参加する前は、中国で一体何をやるのだろうか、友誼キャンプとはなんなのだろうか、何語でしゃべるのだろうか、不安などはなかった代わりに、私の頭の中には疑問が数えきれないほど浮かび上がっていました。いまいちイメージがつかめないまま、気づいたら中国に着いていて、その瞬間私の頭に植えられた中国の第一印象はあまりの人の多さでした。空港に着いた瞬間のざわつきと人が溢れんばかりにいる様子は中々日本では見ることのできない光景で、その時初めて気持ちが強張ったように感じます。

中国に到着した翌日、日本以外の8カ国から集った仲間と初めて顔を合わせました。今まで聞いたことのない言語が周りで飛び交い、日本では考えつかないテンションに囲まれ、私の気持ちもとても高ぶっていました。うまくコミュニケーションが取れるか心配していた時に、周りの子から出てきた言葉はまさかの流暢な英語。これなら私もイケると思い陽気な雰囲気に乗っかり、わいわいとやっていたら、いつの間にか友達ができていました。そこから数日間には本当にあっという間でした。中国の市街地やはずれの地域へ観光に行ったり、中華街のような場所で食べ歩きをしたりと、中国の文化も多く学ぶことができました。それ以上に、今まで私の頭に根付いていた、「中国は治安が悪い。汚い。変な人がたくさん。」といった偏見がなくなっていったことが、私の中で一番大きな変化でした。町中は日本に負けないほど栄えていて、道端にごみ箱が設置されていたりと、想定外の情景を多く目にしました。しかし、水回りや市外から外れた地域は整備されていないことが多く、やはり日本は綺麗で平和な国だなと改めて実感することができました。

## 2018 Jiading International Youth Friendship Camp

このキャンプを通して、私は様々な自分の中の「中国」というイメージを覆されました。その国に実際に行く前に、自分の勝手に一方的な印象でこの国はこうだと決めつけてはいけないと深く反省しました。さらにこのキャンプでは、英語を学んでいて良かったと改めて思った9日間でした。言葉の壁がないこと、他国の人と弊害なく関わることができること、この9日間を通して私はこれを宝だと思いました。そして、この時初めて私は友誼キャンプの意図を捉えたような気がします。もちろん、「友誼」ということで他国の人と仲良くなるのもそうですが、他国の文化を実際に現地の人から聞いて学ぶこと、その国に行ってみたいと思うこと、もう一か国語学びたいと思うこと、これらを友誼を通して学ぶことがこのキャンプの意図なのかなと自分なりに解釈し、思いました。

私が中国に行って感じたこと、体験したことはとてもありきたりなものかもしれませんが、私にとってキャンプで学んだことはその場に行かずには感じることでできなかった自分の伸びしろ、今後の人生において、「もっと勉強頑張ろう。」「もう一か国語習ってみよう。」など些細なモチベーションを上げてくれるものでした。9日間で感じ取った空気感や臨場感、自分の足りなさをしっかりと忘れず、今後の活動に生かしていきたいです。この貴重な体験をさせてくださった、太田市の皆様、嘉定区の皆様、自分の両親への感謝も忘れずにしたいと思います。